

令和6年度

総合型選抜Ⅰ期 問題 **大学**

課題作文

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 受験票に記載された学科と解答する学科に相違がないか、確認すること。
また、健康栄養学科・看護学科・理学療法学科・作業療法学科の受験者は、受験票に記載された科目と問題冊子に相違がないか確認すること。異なる場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ③ 開始の合図の後、解答用紙に「氏名」、「受験番号」を記入すること。受験番号は算用数字で記入すること。
- ④ 試験時間は、60分です。
- ⑤ 句読点は1字として数えること。
- ⑥ 下書きは、問題用紙の余白・裏面を使用すること。
- ⑦ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- ⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

次の文章は、小学校教員を38年間勤め、その後太陽の子保育園園長となった鹿島和夫によるものです。これを読んで、後の設問に答えなさい。

わたしたちは、自由という思想を大切に保育を進めています。それは、子どもたちの生活や言動が自主的なものであり創造的で個性的なものであってほしいと願っているからです。できるだけ管理的にならないように、大人の恣意に満ちた生活に子どもに強制的に求めないように、子どもたちがのびのびと自由にふるまえるようにしてもらいたいという願いをもって保育に当たっているからです。そんな中で育つ子どもほど、子どもらしい心をもった人間となり、自発性や独創性を発揮する子どもに育つのではないかと信じているからなのです。

保育士の子どもに対するふれあいの様子を観察すると、そんな考えで保育を行っていることが見えてきます。

先日、内科検診がありました。五歳組の子どもたちは、裸んぼうになって、事務室にやってきました。

みんな、黙って静かに並んでいます。

お医者さんが「おやおや、みんなお行儀いいね」と褒めてくださっています。

保育士は、子どもたちに「前にならえ」「静かにしなさい」などといった言葉を使っていません。ただ、小さく口調を押さえて、「今、お医者さんが見てくれるから、じゃまにならないようにしましょうね」といっているのです。

子どもたちは「うんうん」とうなずきながら聞いています。そして、だれかが、ちょっとでもものをいおうとすると、子どもたち同士で「しいー」といいながら口に入差し指を当てておしゃべりは迷惑だよと注意を与えているのです。

じつは、太陽の子保育園の評判として、放任されているから、子どもたちは、自由にふるまい、好きなように生活しているから、規律やけじめを守れない乱暴な子どもが育っているといわれているのですが、どうしてどうして、このような子どもの様子を見ている限り、礼儀正しい節度をわきまえた子どもが育っているといえるではありませんか。

今、みんなはどのように振る舞えばいいのかということをきちんと認識しているからです。

わたしが教師時代に見ていたものは、「きをつけ。前にならえ」方式のしつけ方でした。

内科検診が行われると、みんなは裸んぼうにさせられますが、廊下でみると、「前にならえ」とまず整列です。廊下を歩くのに、先生が先頭になり静かに移動していきます。おしゃべりをしようものなら、先生から、「話をしてはいけない」と叱られます。

保健室に来ると、入口に出席順に体操座りをしていきます。

そして、先生の口からでてくる言葉は、常に、「しゃべるな」「静かに」といった禁止する命令形ばかりです。

そんな言葉で禁じられていますが、子どもたちは、静かにお医者さんの順番を待っているかという、必ずしもそうではなく、緊張感がほぐれてしまうと、いつしかざわざわと言葉の波が聞こえてくるようになってしまいます。それを聞き付けた保健の先生が、また、叱責の言葉を発するということになるのです。

どうして、同じ幼児期の子どもなのに、このような違いがでてくるのでしょうか。

それは、今、自分たちは、どうすればいいのかということ自分たちが考えられるということと、自分たちで考えることができなくて、人からいわれたことでしか動けない子どもの違い、つまり、自分でわかるとわからないとの違いが表れているのです。

保育園の子どもは、今、おしゃべりをすると、お医者さんや他の人に迷惑をかけるから、静かにしておかなければならないということを理解している。先生に命令されている学校の子どもは、命令されて禁止されるから口をつぐむが、この緊張が切れたならば、元の木阿弥になってしまう。つまり、先生にいわれるから、おしゃべりをしないけど、なぜ、おしゃべりをしてはいけないのかが、自分では理解できていないという違いと思われるのです。

(出典：鹿島和夫『ぼくの子育て日記』法蔵館、2002年)

設問1 文中の下線部の問い「どうして、同じ幼児期の子どもなのに、このような違いがでてくるのか」について、あなたの考えを述べてください。本文を引用する場合は、必ず引用箇所を「 」で示してください。(300字以内)

設問2 あなたはどのような願いをもった保育者・教育者になりたいですか。上記の文章を読んだうえで考えたことを述べてください。(500字以内)

〈留意事項〉

必要に応じて段落分けをし、読みやすいようにしてください。